



雨のふる日に



あめのち ゆうやけ せんたくかあちゃん

さとう わきこ さく・え 福音館書店 Eーサ

あらしのようなあめがふりつづいて、かあちゃんはせんたくができませんでした。つぎのひ、おひさまがすこしだけかおをだしたので、かあちゃんはかわでせんたくをはじめます。せんたくものをぜんぶあらってしまうと、はっばといっしょにへんなものがながれてきました。

沖釣り漁師のバート・ダウじいさん

ロバート・マックロスキー さく わたなべ しげお やく 童話館出版 Eーマ

「潮まかせ」という名のおんぼろ舟に乗ったバートじいさんは、チャカチャカバンとエンジンの音をひびかせながら、沖釣りにでました。釣りばりをしっぽにひっかけて、くじらと知り合いになったそのとき、突風がふきつけ、大波が舟にぶつかってきました。きけんを感じたバートじいさんは、舟ごとのみこんでほしいと、くじらにたのみました。

がんばれヘンリーくん

ベバリイ・クリアリー 作 松岡 享子 訳 学研 933ーク

三年生のヘンリーは、あばら骨が見えるほど、ひどくやせた犬に会いました。その犬をバスでうちに連れて帰ろうとしますが、運転手は、生きものをそのまま乗せてはいけないと言うし、外は暗くなってきて雨もポツポツふりだしました。ヘンリーはいろいろ考えて、犬を紙とひもでつつんでバスに乗りました。ところが、その大きなつつみが、ガサガサガサと動きだしたのです。

コブタと大こうずい

A. A. ミルン ぶん 石井 桃子 やく 岩波書店 933-ミ

雨がふりつづき、水かさはコブタの家のすぐきわまであがってきました。コブタは、無人島にすんでいたある人が、びんのなかになにか書いて、海へほうりこんだという話をおもいだしました。コブタは、小さな紙きれに「たすけてください!コブタ(ぽく)」と書き、びんに入れて窓からのりだし、もうこれ以上遠くへは、なげられないというところまで、遠くへ、びんをなげました。

みずたまり

ロジャー・デュボアザン え アデレイド・ホール さく こみや ゆう やく 好学社 E-デ

めんどりがみずたまりをのぞきこんで、「まあ、たいへん!めんどりが、みずのなかにおっこちてるわ!」とおおきなこえをあげました。あつまったどうぶつたちも、くちぐちに「どうぶつたちがおっこっちゃってる!」とおおさわぎになりました。

山賊のむすめローニャ

リンドグレーン 作 大塚 勇三 訳 岩波書店 949-リ

雷がとどろき、鳥女たちがわめき叫ぶ夜、ローニャは生まれました。その雷が、山賊の城をまっ二つにさいてしまいます。裂けめをはさんで、一方にはローニャの父親マッティスを頭とする山賊が、もう一方に大敵ボルカとその息子ビルクが住んでいました。そしてある日、ローニャとビルクは出会います。

雲ごよみ 天気と季節の観察図鑑

高橋 健司 写真・文 山川出版社 451-タ

春から夏に移るときの曇りや雨が続く天気を「梅雨」と呼びます。梅雨の天気図を見ると、梅雨前線は日本付近でほとんど動きません。前線の北側は春の天気、南側は夏の天気です。前線は季節の境目となり、ちょうどその場所で春と夏が「押しくらべ」をしているのです。